

●行政視察（福島県西郷村） 岩崎 由美  
6月26日（木）～6月28日（土）

#### ○西郷村の概要

明治22年に誕生。1985年（昭和55年）に12,744人だった人口は2023年（令和5年）には21,005人となる。同年の人口増減率は0.6で県内トップ。また2020年（令和2年）の労働人口の構成比は6割を超えるが、1985年（昭和55年）以降では2000年（平成12年）の66.4を最高に微減となっている。

村の財政は一般会計14億余。固定資産税（令和5年度3,300億円）や法人税収が堅調だったため、2022年以前は不公布団体であったが、2023年度より公布団体となった。また、全国自治体経営力ランキングは、2023年度は4位、2024年度は3位であった。ちなみにそれぞれの年度において、青ヶ島村は3位、4位、八丈町は2023年度において、1071位であった。産業別生産高は公表されていないが、令和2年の産業別就業者割合は、第一次、第二次、第三次の順に6.3%、40.1%、53.6%で製造業をはじめとした第三次産業が盛んであることが窺える。

#### ○西郷村の潤沢な財力や、移住者が多い理由

1973年（昭和48年）に東北自動車道白河インターチェンジ共用開始。1982年（昭和57年）に東北新幹線開業、磐城西郷駅が新白河駅となり交通の利便性が向上。また、阿武隈山系に由来する豊かかつ水質の良い地下水によって信越半導体白河工場、エルナー（電子部品製造業）、オリンパス（精密機器）などの企業が進出した。信越半導体白河工場は1984年に設立され、40年近く前に半導体工場を誘致したことは、先見の明があると言って良い。

また行政として、西郷村企業立地促進条例による企業誘致奨励金等をはじめとした企業誘致に力を入れているほか、移住者支援として西郷村若者定住・雇用促進事業、西郷村定住者住宅取得支援事業、西郷村新幹線通勤費補助事業などがある。とりわけ地価が比較的安いことも移住者が多いことの大きな理由となっている。また子育て支援策も幅広く「暮らしお役立ち情報一覧」としてその内容についてわかりやすいリーフレット作成していた。

#### ○村内視察

##### 移住者経営のパン店「ベーカリーPUN」

元警視庁警察官の伊藤氏が「地域に溶け込むパン屋さん」を目指して経営。東日本大震災時に福島県に派遣されたのが移住のきっかけ。1500万円で古民家風の中古住宅を購入し、500万円をかけてリノベーション。販売日は週2日だが、現在では経営的には成り立っているそう。西郷村産の小麦粉ができるようになり、より地

元に密着した美味しいパンを作っていきたいとのこと。

その他、福島県相馬市より移転した大堀相馬焼松永窯、（株）林養魚場。ハイランドポートフルフリー（移住者経営の日本一小さな地ビール工場）を見学。

まるごと西郷館 西郷村を中心に県南部地域の野菜や果物、お惣菜などを販売。地域の産品を販売している施設。地元住民や観光客に人気であった。

追加として西郷村デマンド交通についてヒアリング 約1,000人/1日の利用者、タクシー会社2社が運営、村からは年間3,000万円をしている。

#### ○視察を終えて

八丈町とは様々な状況がかなり異なるので、行政的な施策としてそのまま参考となるような内容は多くはなかったというのが印象。しかしながら移住施策のうち、特に空き家対策については、「西郷村空き家等対策計画を策定し、空き家バンク、空き家利用活用事業、空き家管理の助成、空き家解体補助、空き家改修等支援事業補助金、などが用意されており、このあたりは事前にもう少し勉強し、現地で実際のヒアリングを行うべきだったと反省。

#### ○その他

1) 視察中、広大なメガソーラーを目にした。上海電力日本による事業との事。地元住民が不安視している中、説明不足や環境への影響が懸念されている。中国資本による土地取得についても曖昧なようで、今後の動向が注目される。

2) 人口が増加しているのにも関わらず、児童数を見ると社会移動はなく、出生数は減少傾向であるとのこと。この10年で100名ほど減少し、今後5年間でさらに200名減少すると予測している。すでに学校規模適正化配置検討委員会を設置し令和5年9月に同委員会から「西郷村立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置にかかる提言」を受けたとのこと。八丈町でも同様の課題を抱え、検討を始めたばかりであり、人口が増えているにも関わらず小学生は減少している同村の対応については参考になると思われた。